# Kandai Style

2015.12 Vol.446
関西大学通信

# 2015年関西大学おもしろニュース

130 KANSAI UNIVERSITY

12月号の表紙・カメラマン
吉内涼介さん(商1)

被写体
河合麻琴さん(文1)
凜風館にて撮影

# 2015年 関西大学 おもしろニュース

## カンスポ編集局長に聞く！ 2015年KAISERSの活躍

**Q.2015年を振り返って、浦野編集局長から見てもっとも目を引いたクラブは?**

体育会ソフトボール部ですね。ソフトボール部は、カンスポで2度も一面に取り上げています。昨年の秋季リーグ、今年の春季リーグと二季連続で全勝優勝しました。おもしろいのは、試合前に数十秒ほど、部員の誰かが、皆の前でネタを披露するんです。ゲームのキャラクターの物まねとか。スタメンに入っていなくても各自が自分の役割をしっかりと果たしている、これが士気を高め躍進の原動力になっているように思います。

**Q.注目している選手はいますか?**

KAISERS全ての選手に注目していますが、今年は特に体育会相撲部の田中学さん（人1）ですね。昨年最後の部員が卒業し、体育会一歴史ある相撲部の存続が危ぶまれたのですが、高校時代に国体でベスト16にまでなった田中さんが入部しました。6月に行われた総合関関戦では9年ぶりに関学に勝利！　救世主と言っていいでしょう。

**Q.個人的に特に思い入れのあるクラブはどこですか?**

たくさんあって迷うのですが、今年は体育会野球部ですね。4年間野球部担当だったのもありますが、昨年秋、19年ぶりに優勝し神宮球場まで連れていってくれました。その際は、感無量でスコアをつけながら目をうるうるさせていました。今年は、首位攻防戦となった第5節・立命戦で惜敗し、無念の2位となりましたが、4年間野球部を支えた大エース・石田光宏さん（経4）が、最終節に行われた伝統の関関戦で、リーグ史上10人目・25年ぶりとなる通算30勝を達成。4年間ずっと取材させてもらった選手の大記録達成の瞬間に立ち会えて最高でした!!

浦野亮太さん（社4）

**浦野さんはこんな人・・・**

高校まで水泳に打ち込んできたスポーツマン。大学入学を機に大好きなスポーツに関われて、書くこと、しゃべることが好きな自分にぴったりの『カンスポ』の存在を知り入部。4年間、雨の日も風の日も嵐の日も、私生活を犠牲にして取材を続けてきた熱血記者。部員にも、少しでも時間があれば、1つでも試合を観に行くよう指導。自他共に認めるKAISERS愛の持ち主。カンスポでの頑張りが認められ「スポニチ」への就職を決めた。

## KUBIC2015

10周年の節目を迎えた「KUBIC2015」の学生実行委員会代表として走り続けた1年でした

学生実行委員会代表
倉田幸季さん（商3）

**「KUBIC」とは・・・**

商学部の学生実行委員が主催・運営するビジネスプラン・コンペティションで、次世代の起業家育成やアントレプレナーシップ（起業家精神）啓発を目的としている。毎年、全国の高校や大学、一般の方などから多数の応募が集まり、2015年度は1,742件ものビジネスプランが集まった。

**Q.KUBIC実行委員の活動内容は?**

本選会に向けた広報・宣伝活動と、本選会当日の運営です。講演会の開催、高校に出向いてのKUBICの説明会、生協などとコラボしたメニューの企画販売、協賛企業とのやりとりなどさまざまです。本選会が近づくと、当日に向けた準備、リハーサルなどを入念に行います。

**Q.代表として大変なこと、得たことは?**

これまであまり自分から率先して何かをするタイプではなかったので、42人の実行委員を統括するのが大変でした。企業の方やKUBIC委員の先生、実行委員の先輩後輩など普段は出会えない方々との出会いに今は感謝しています。「何事もプラスに変えて楽しまないと」と考え方が変わりました。

**Q.将来の夢や今後の展望は?**

商品やCMを見るたびに、企画意図やビジネスプランを考えるように視点が変わりました。将来は何かを創造し、商品企画などを考える仕事に就けたら、と考えています。

## 関大前ラボラトリまち・かん114（いいよ）

地域の方とのコミュニティスペース「関大前ラボラトリまち・かん114」を運営しています

**「関大前ラボラトリまち・かん114」とは・・・**

2015年6月に関大前通りにできた大学設置の学生と地域住民をつなぐコミュニティスペース。まちかん発信のイベントはもちろん、ゼミや会議、イベント等の用途に、学生だけでなく地域の方も利用できる。現在は、理工学研究科・環都・商・社・政策の教員および有志の学生たちが運営している。

**Q.「まちかん」ではどんなことをしていますか?**

（因田さん）まちかん発信のイベントとしては、小学生と一緒に関大前の街のジオラマを作る「ポップアウトタウン」を行ったり、より居心地のいい場所にするために「まちかんペンキ塗りワークショップ」を実施したりしました。

**Q.「まちかん」を通して得たことは?**

（因田さん）代表として仕事を割り振ったり意見をまとめたりすることが身に付きました。「失敗も勉強のうち!」と思い楽しく活動しています。

（牧角さん）関大の一施設としての責任や運営のルール作りなどで苦労もありますが、これまであまり冒険しない性格だった私が、実際に関わり行動することで、新しいことへの挑戦を楽しむようになりました。

（奥田さん）初めてづくしで正解が分からない中、さまざまな人たちと関わることで相手の目線に立って予測し、準備する大切さを学びました。また、希薄になりつつあるコミュニティを復活させる手伝いができることがうれしいです。

**Q.「まちかん」の今後の展望は?**

（因田さん）学生も地域の方もふらっと気軽に立ち寄ってもらい、ここに来たら関大のことが分かる、関大生の活動が分かる場所にしたいです。

（左から）
代表因田恭崇さん（理工学研究科M2）
奥田貴之さん（環都4）
牧角 雄さん（理工学研究科M2）

## 文化会「関西大学グリークラブ」

5月12日、京セラドーム大阪でのプロ野球公式戦（オリックスvs.楽天）で国歌斉唱をしました

編集広報担当
竹菱章悟さん（社3）

**文化会「関西大学グリークラブ」とは・・・**

1949年創部の男声合唱団。毎年12月に開催する定期演奏会を中心に、他大学とのジョイントコンサートや合同演奏会、関西合唱コンクールに出場するなど幅広く活動。今年の関西合唱コンクールでは銀賞を受賞した実力派ぞろい。現在部員は29人。

今年の定期演奏会
12月20日（日）16時30分開演
箕面メイプルホールにて開催

**Q.国歌斉唱を行うことになった経緯は?**

昨年も国歌斉唱をさせてもらった関係で、今年もオリックス・バファローズの球団から声を掛けていただきました。

**Q.国歌斉唱を行うにあたり、練習で気を付けた点などは?**

単旋律をパートに分けず歌うので、皆で音を合わせるように気を付けました。短くゆったりとした曲なので強弱をつけて、プツプツと切れないように音をつなぐよう意識しました。

**Q.当日の感想を教えてください**

普段入れない場所に入り、大勢の観客の前での国歌斉唱ですので、絶対に失敗は許されないと、大変緊張しました。特に1年次生は、初めての本番で極度に緊張していましたので「リラックスして、声を合わせて、声を前に飛ばしていこう!」と声を掛け合いました。この経験を通して、部員皆が、「関西大学グリークラブの一員だ」というアイデンティティーがより強く芽生えたと思います。

## 四川大学第2回大学生減災・復興国際フォーラムに参加

さまざまな国の学生と活動を共にし、視野が広がりました

広瀬一さん（安全3）

**「四川大学第2回大学生減災・復興国際フォーラム」とは・・・**

2008年5月12日に四川大地震が発生してから7年を迎え、被災地にある四川大学が、防災や災害復興を担う人材を国際的に育成することを目的に開催。世界各国の学生が参加。5月11日～17日まで。北川地震遺跡調査や汶川災害復興博物館見学、都江堰見学、地震防災応急訓練体験などさまざまなプログラムを行った。

**Q.このフォーラムに参加することになった経緯は?**

ゼミで募集要項が配られ、昨年の夏に東北の被災地を訪れたこともあり、他の場所も実際に見てみたいと思い応募しました。

**Q.調査や視察の中で、特に印象に残った場所は?**

北川地震遺跡です。崩れた建物や歪んだアスファルトなどがそのまま残されていて、洗濯物なども干したままなど生活の跡が生々しく、非常に衝撃的でした。

**Q.参加されてみて、自身の変化などはありますか?**

例えばオランダでは地震や土砂災害は少ないですが高潮による洪水が問題になっているなど、環境の違いによって防災意識も違うのだと気付きました。また、各国の学生と密に交流したことで、貪欲に学ぶ姿勢にも刺激を受けました。私は化学プラントの事故など社会災害を学んでいるのですが、化学プラントは主に海外での需要が多いので、海外での仕事にも携わりたいと視野が広がりました。

## バトン世代別世界チャンピオン

バトンの世界大会「インターナショナルカップ」のアーティスティックトワールで優勝しました

稲熊小夏さん（人1）

**「バトントワリング」とは・・・**

音楽に合わせバトンの技術と芸術性を組み合わせて踊る身体表現。バトンを空中に投げスピンや宙返りをしてキャッチするエーリアルや、バトンを手や指で回転させるコンタクト・マテリアル、バトンを手に持たずに身体で転がすロールなどの技（3モード）がある。競技種目はソロトワール、アーティスティックトワール、2バトンなど12種目。

**Q.バトンを始めたきっかけは?**

テレビアニメで見た「Cosmic Baton Girl コメットさん☆」に憧れて6歳の時に今も所属する「ゆかバトンスクール」に入りました。

**Q.今年はインターナショナルカップのアーティスティックトワールで優勝、ソロトワールで2位、グランプリ大会のソロトワールで3位と躍進しました。**

ご指導してくださる先生がたや、家族などいつも応援してくれる人たちに感謝しながら、張り切って踊りました。ワンカトルというバトンを高く投げて、1回スピンをし4回イリュージョンをして取るという難易度の高い技を取り入れたのも大きかったと思います。新しい振り付けがなじんできて、自分のものになってきたと感じたときはうれしかったです。

**Q.将来の夢や今後の展望は?**

日本から女子シニア部門で3人しか出場できない来年のワールドカップに出ること、将来的には、シルク・ドゥ・ソレイユのように世界的に活躍できるパフォーマーになりたいです。

## 天王寺動物園シカケコンテスト2015

アイデア部門で最優秀賞を受賞しました

白水菜々重さん
（総合情報学研究科D1）

**白水さんのアイデアとは・・・**

「動物園にしかない素材を市民と動物とのコミュニケーションに活用したい」。そこで、さまざまな表情やポーズを取る動物たちの写真に、マンガの吹き出しや効果線のシールを貼り付け、自由にセリフを考えてもらいながら「どうぶつマンガ」を作るワークショップを考案した。

**Q.応募しようと思ったきっかけは?**

天王寺動物園は、大阪市民の私にとって馴染み深い場所です。大人から子供までより動物園を楽しんでもらうために、コストをかけずにちょっとした工夫で実現できる「シカケ」をデザインしたいと思いました。

**Q.なぜ最優秀賞を受賞できたのでしょうか? ご自身が思うアイデアに関しての良かった点などを教えてください。**

マンガを描くことは難しいですが、マンガ固有の記号をシールにすることで誰もが簡単に表現できるようにしました。写真を選ぶ、セリフを考える過程を通して、気付かないうちに動物の表情をじっくり観察するという副次的な効果を狙ったところが評価されたのではないかと思います。

※1

※2

**Q.将来の夢や今後の展望は?**

“気づきを広げる”をキーワードに、人の行動や考え方を変える支援について研究しています。情報技術に仕事で身に付けた伝える力を組み合わせながら、「おもしろくて深いアイデア」を提案していきたいです。

※天王寺動物園シカケコンテスト2015――今年100周年を迎える天王寺動物園をテーマとして、大阪大学未来知創造プログラムが主催となり、「シカケ」により人の行動変容を促し、問題解決へと繋げることを狙ったもの

（※1･2）の写真提供：大阪大学・松村真宏准教授
（※2）コンテスト応募作品（写真提供）：ソザイング（画像提供）フキダシデザイン、擬音祭り

みんなで一緒に考えよう。
# 関大誌上教室

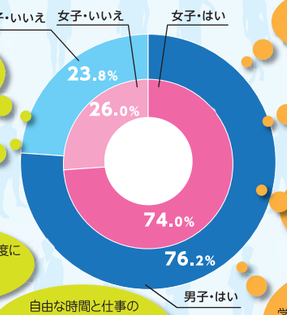
“働く”って何？

# 関大生の仕事観調査

近頃、世間では若者の仕事に関する意識や考え方についてさまざまな見解が見受けられます。
関大生の皆さんは“働く”ことに関して、どのような意識を持っているのでしょうか。今号では、「仕事観」をテーマに関大生の考えをリサーチします。

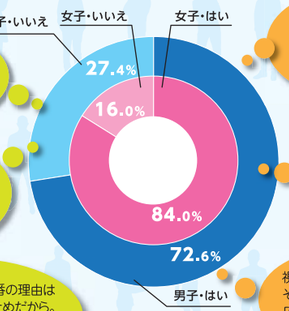
【アンケート期間:10月5日～10月16日　対象:関大生　回答者364人（男子164人　女子200人）】

## Q.1 社会に出て、バリバリ働きたいと考えていますか？（一つ選択）



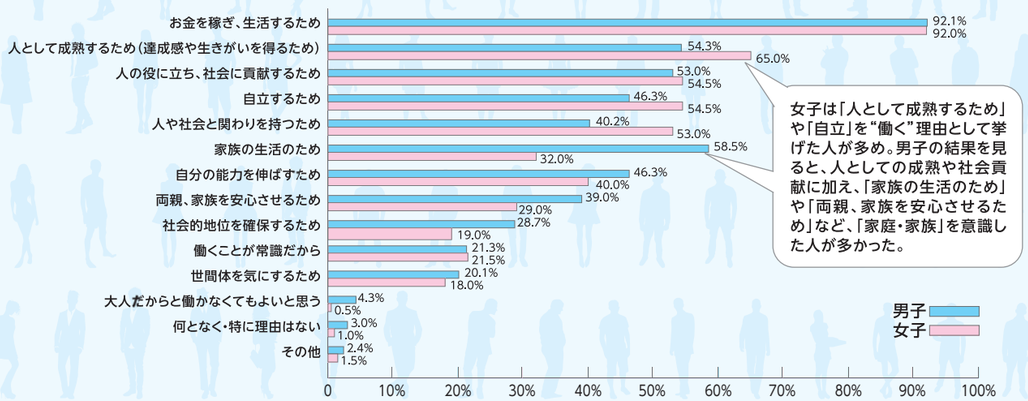

- 仕事だけが人生における優先順位の第1位ではないと考えているため。（文1・女子）
- バリバリというより低給でも構わないので心にゆとりを持って働きたい。（社安3・男子）
- 体調を崩さない程度に働きたい。（化生2・男子）
- 自由な時間と仕事の時間を同じくらいの割合にしておきたいから。（法学研究科M2・女子）
- 富と地位と名誉が欲しいから。（法4・男子）
- 働く女性に憧れがあるから。また働くことにより自分自身成長したいから。（経4・男子）
- 今まで「やりがい」を大切にして生きてきました。社会に出ても、「やりがい」は持ち続けたいです。（政策3・男子）
- せっかく大学で4年間学び社会に出るのだから、自分の能力をフルに発揮させたいため。（総情2・女子）

## Q.2 お金に（生活をするのに）困らないとしても、働こうと思いますか？（一つ選択）



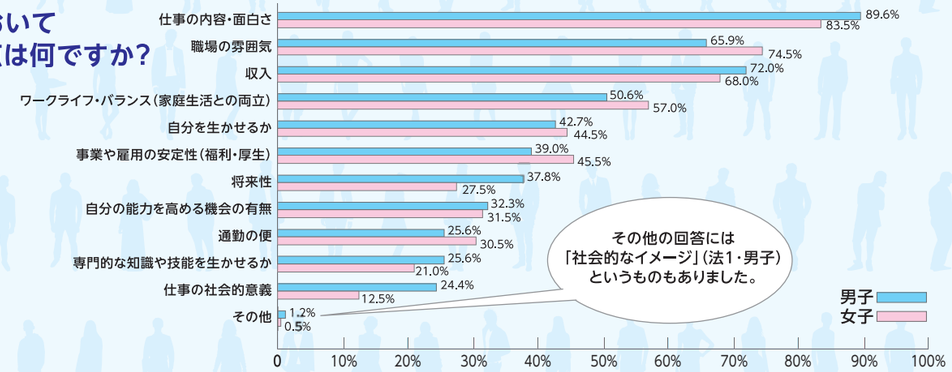

- 仕事はお金をもらうためにすると思っているから。（社1・女子）
- 生活することが可能ならば自分から苦境に飛び込む必要はないと感じるから。（総情1・女子）
- やっぱり働くことの一番の理由は自分や家族の生活のためだから。お金に困らないのなら趣味や家族との時間を増やしたい。（人3・男子）
- （働かないと）人生を生きている感じがしなさそう。充実感がない。（経1・女子）
- お金に困らないのならなおさら、挑戦的に働きたい。（商2・男子）
- 視野を広げたいから。そして、自分の世界を広げていきたいから。（環都2・女子）

## Q.3 あなたにとって、“働く”理由は何ですか？（複数選択）



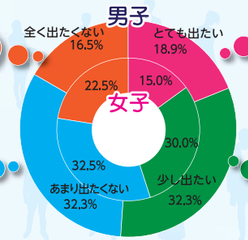

女子は「人として成熟するため」や「自立」を“働く”理由として挙げた人が多め。男子の結果を見ると、人としての成熟や社会貢献に加え、「家族の生活のため」や「両親、家族を安心させるため」など、「家庭・家族」を意識した人が多かった。

## Q.4 職業選択において重要視する点は何ですか？（複数選択）



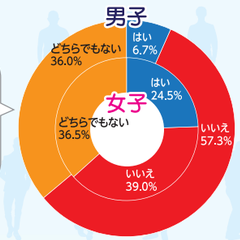

その他の回答には「社会的なイメージ」（法1・男子）というものもありました。

## Q.5 将来海外に出て働きたいと考えますか？（一つ選択）




- インターネットなどで世界中の人とつながって仕事ができる。そのため海外に出ていく必要性が感じられない。（社4・女子）
- 語学習得が少し億劫。日本に貢献できるなら、海外に行くのも悪くはないと思う。（社安1・男子）
- 大学で英語を専門的に勉強してきたから。さまざまな国の人と共に働きながら刺激を受け、自分の能力を伸ばしたいから。（外3・女子）
- 海外に出て自分の能力を伸ばしたいから。しかし、まだ海外に出ることに不安がある。（文1・女子）

## Q.6 専業主婦または主夫になりたいという願望はありますか？（一つ選択）




専業主婦（主夫）を明確に肯定・否定していない人が男女ともに意外にも多かった。

## Q7.社会に出て20年後、40代になった自分は、どんな自分ですか（どんな働き方）？想像してください。

- 専業主婦になっているのが理想。（経3・女子）
- 部下や同僚と協力してビッグビジネスに手をかけている（外2・男子）
- 年収は1000万円に手が届き始め、優秀な部下と頼れる上司に囲まれ、素敵な家族を持ち、都内の超高層マンションに住んでいるはず。（商3・男子）
- プロゴルファーになり、世界の恵まれない子どもに物資を届け、プレーだけでなく、人間性を尊敬されるプレーヤー。（社安1・男子）
- 仕事をする意味を自分なりに見つけて、仕事を頑張っていると思います。（商1・女子）
- 家庭もあるのでフルタイムでは働けなくなっている。労働時間の短い雇用形態で働いていると思う。（社安3・女子）
- 海外に出て世界の面白いところを日本の多くの方に知らせていると思います。（社1・男子）
- 希望としては、高給取りでなくていいので、忙しすぎず職場の人とも仲良く笑っていられるようなイメージ。（シス理3・男子）

## 就職活動を終えた4年次生に聞きました！「“仕事観”って変わりましたか!?」

### 上村彩由里 さん（政策創造学部4年次生）

ゼミ活動を通して、人の役に立ち、社会に良い影響を与えられる仕事をしたいと考えていましたが、やはり「仕事をする」「働く」ことは、義務であり不安なことであるという気持ちが強かったです。就職活動中のOB・OG訪問やインターンシップで、自分の興味のあること、好きなことを仕事にしている人は生き生きしていると感じたことで、今は当初から描いていた、社会に良い影響を与えられる仕事ができたら毎日が充実するだろうなと思っています。

将来は、家庭と仕事を両立させながらしっかりと働く女性になっていたいです。

### 永峰和也 さん（理工学研究科M2）

自分の将来について考え始めるまでは、どんな働き方をしたいとかいう明確なイメージは持っていませんでした。「働く」ことは、つらくしんどいこと、やらねばならないことという否定的な考えでしたが、就職活動が始まり、企業で働く方の雰囲気を見て、「この人たちは、自分の仕事にやりがいを持ち、働くことを楽しんでいる」と思った瞬間、「自分もそうなりたい」と、働くことへの考えが180度変わりました。

将来、前向きに自分の仕事にやりがいを感じながら、バリバリ働いていたいなと思います。

OPINION OF PROFESSOR

キャリアセンター主事
文学部　多賀 太 教授

これは今回のテーマに関心を持って回答した人の結果である点を考慮する必要はありますが、働くことに対してとても前向きな姿勢がうかがえます。仕事は何よりもお金を稼ぐ手段だと見なしながらも、お金に困らなくてもバリバリ働きたいと考えている人が大多数を占めています。若者の「内向き志向」が指摘されていますが、約半数は将来海外に出て働くことに意欲を示しています。男女別に見ると、お金に困らなくても働くと回答した割合や、働く理由として「成熟」「自立」「人や社会との関わり」など自己成長に関わる項目を挙げた割合は女子の方が高いのに対して、「家族の生活」「両親、家族を安心させる」「社会的地位の確保」など周囲の期待や世間体に関わる項目を挙げた割合は男子の方が高くなっています。同時に、男子の4割以上が専業主夫になることを明確には拒否していません。社会的成功や家族の扶養責任をより強く意識しながらもそれらを重荷に感じている男子も少なくないようです。

次号のテーマは…「関大生と旅行」

皆さんは「行ってよかった」「心に残った」「人生観が変わった」と思う旅行経験はありますか？
次号（1月号）では旅行を通して、さまざまなことを考え、学び、成長した経験などを調査し、紹介します。

12月号「関大誌上教室」アンケートプレゼント当選者の発表について

今号の「関大誌上教室」アンケート「関大生の仕事観調査」にご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。プレゼントの発表は、当選者のみ、インフォメーションシステム「個人伝言」で連絡します（12月1日に通知予定）。

「関大誌上教室」のアンケートは次号以降も行う予定ですので、ご協力をよろしくお願いします。

# 働く関人 kandaijin

レジャー業界／飼育担当

## アドベンチャーワールド
## 本多琢巳さん

滋賀県立国際情報高等学校出身
2014年社会学部卒業

### 人とも動物とも触れ合える。一般の会社では味わえない喜びを得られる仕事です。

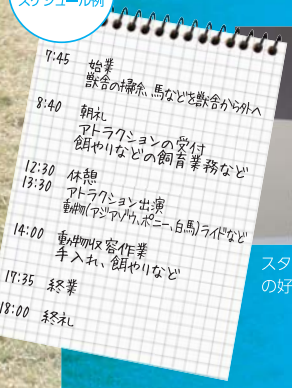
和歌山県の白浜町にあるアドベンチャーワールド（株式会社アワーズ運営）で働く本多琢巳さん。入社当時は運営部営業課に配属されていましたが、2年目に当たる今年からは、希望していた「飼育部ふれあい課」に異動。現在は文字通り動物とじかに触れ合い、アジアゾウとポニーの飼育を担当しています。

幼い頃から動物が大好きだった本多さんは就職活動中に相次いでペットの犬と猫を亡くしました。生命の重み、大切さを痛感している時にアドベンチャーワールドの募集を知り、動物と関わる仕事を強く望んだのだと言います。

アジアゾウやポニーなどの飼育という裏方の仕事と、ファミリー広場やゾウふれあい広場での動物ライドなど、アトラクションやショー、イベントへの出演といった表舞台の仕事の両方が本多さんの日々の業務です。子供向けのアトラクションツアーの企画立案が採用され、喜んでいる子供の姿を見たり、動物が自分の考えた新しい技をマスターしてくれた時に達成感を得ていると言います。そして、「パフォーマンスを観たお客様から『良かった』、『楽しかった』と声を掛けられるとうれしいですね」と笑顔で話します。

実は、大学在学中に芸能活動もしていたという本多さん。「学生の間にやりたいこと、好きなことを追い求めることはとても大事だと思います。無駄に思えることもいつか生かせる時が来るはずです」と、後輩へエールを送ってくれました。

ある1日のスケジュール例



スタッフの帽子とリスザルのトレーニングなどに使うエサ入れ、ポニーの好物ニンジンと爪の汚れ取り用ブラシは必需品です。

Animal Breeder

VIVA!

学び場

留学生1年次（全学部）対象

# 「日本語3」

## 嶋津百代 准教授

## アカデミックな場で必要となる日本語を学ぶ

**「聞く」「話す」に特化した授業から、日本語スキルの向上と自律的な学習方法の習得を目指す。**

嶋津百代准教授の「日本語3」は、文法や漢字、語彙といった文章に関する学習ではなく、大学での学びに必要な日本語の「聞く」「話す」ことに特化した1年次生の外国人学部留学生を対象とした授業です。留学生にとってはどの学部であっても2年次、3年次のゼミ発表のためには日本語の理解と表現・伝達力が必要不可欠であり、その修得は学部での学びにも関わる重要な課題となります。

この授業の主な内容は、複数のグループに分かれ、アニメ、新幹線、若者言葉やネット言葉、ビジネス用語など、留学生自身が日本について興味のあることをテーマにしたプロジェクト発表です。グループごとに情報収集し、考察の上パワーポイントで発表のための原稿を制作します。グループワークでは、それぞれが自由に発言し、意見を交換。各グループに対して先生が、アドバイスや質問をしながら進行し、完成へと指導するのがこの授業の特長です。同じ国出身の留学生同士は母国語でディスカッションをすることもありますが、発表自体は全て日本語のため、留学生はこの授業で日本語を使った発表の準備とそのプロセスを学べます。

20年間、教育現場でさまざまな国の学生に接してきた嶋津准教授。昨年度までは韓国の高麗大学で日本語教育に携わっていました。先生は帰国後、社会情勢や学生を取り巻く環境の変化からか、学生の質が変わったことに驚いたそうです。特に日本人学生の変化は顕著で、留学生に対して壁がなくなり、超文化的なコミュニケーションが取れるようになりました。留学生も以前は、留学を終え帰国後、技術や文化など「日本を伝える」ことを目的とする学生がほとんどでしたが、今は卒業後に日本での就職を希望する留学生が増えているといいます。だからこそ、このような「アカデミックな場での日本語」を実践的に学び、身に付ける「日本語3」は留学生にとって重要な授業なのです。

### 申 鉉虎（シン ヒョンホ）さん（経済学部1年次生）

この授業は先生や学生との距離が近く、日本語で活発にコミュニケーションできるところに魅力を感じています。将来は貿易関係に就き、韓国と日本・アジア諸国とのつながりをつくるような仕事がしたいですね。

### 胡 裴寧（コ ハイネイ）さん（文学部1年次生）

苦手だったグループワークが、この授業を通して少しずつ克服できるようになりました。日本語は母語である台湾語と異なる点も多く、特に敬語の使い方が難しいですが、航空会社で働く夢に向かって頑張りたいと思います。

外国語学部

### 嶋津百代 准教授

全ての留学生に、大学入学時点では未熟であっても、前向きに明るく学びを楽しむ「関大生」になってほしいと思います。将来は、日本でも自国でも第三国であってもいいから本当の意味での「グローバル人材」になってほしいです。
大学がゴールではありません。留学を通して成長してくれることを望みます。

# サクラ20種1300本のナゾ

## 千里山キャンパス

関西大学は各キャンパスとも緑に恵まれ、とりわけ千里山キャンパスのサクラは約1300本、20種類に上ります。もともとほとんどが雑木林や竹林だったこのキャンパスで、なぜこんなに多くのサクラが毎年開花するのか。誰がどんないきさつで植林に協力したのか。その秘密と、緑の保全に携わる裏方さんたちの仕事に迫ってみました。

### 緑の定期便

緑の保全を担当している造園会社の島谷圭三さんらによると、キャンパスのある千里山丘陵はもともと土壌が砂質で、竹の生育には大変良いそうです。しかし養分が少なく、夏は乾燥するのが異常に速いので、多くの樹木にとって決して良い環境とは言えません。そこで大学は、戦後の復興期から徐々に土壌の改良を始め、植林にも力を入れました。

こうした動きをバックアップしたのが昭和50年代の「緑の定期便」でした。ただし、届けられた定期便の中身は樹木ではなく肥料です。贈り主は関西大学教育後援会の1978年度(昭和53年度)会長だった三木大吉さんです。当時肥料会社を経営しており、キャンパスの緑化運動に賛同して、久井忠雄理事長に「大学のキャンパスだけでなく、飛鳥文化研究所・植田記念館の緑の保全に役立ててほしい」と手紙を寄せたのです。以来毎年、20㌔入りの肥料500袋(100万円相当)が関大に届けられ、各キャンパスの緑の根元に植え込まれました。

### 【7年がかりの植林】

これに刺激されたのか、三木さんが肥料の寄贈を始めて2年後、今度は別の人物が「私がサクラを」と声を挙げました。卒業生で当時、財団法人「日本花の会」の会員として活動を続けていた小川實さんです。その計画は大規模でした。「日本花の会」の育苗農園で育てているサクラの3年ものの苗木を、毎年母校に200～300本贈り、最終的に1500本を植林する計画でした。

結局1980(昭和55)年から7年がかりで予定通り1500本が植林されました。その後枯れたりしたものもありますが、島谷さんによるとこれらのサクラは現在でも約20種あり、1箇所でこれだけ多くの種類が花開くのはかなり珍しいそうで、中には秋に開花するサクラもあるそうです。

### 10万本の別世界

入学式が終わり満開の並木がサクラ吹雪に変わるころ、今度はサザンカ、ツツジなどが開花し、やがて常緑樹のクスノキなどの剪定作業も順次始まります。夏の水やりや除草に汗を流したあとは秋から冬の準備です。学園祭には多くの市民も訪れるので、お化粧代わりの剪定も欠かせません。古くなると根詰まりなどを起こしやすくなり、樹木医の治療も行われ、特殊な活力剤を注入することもあるようです。

こうした保全作業のおかげで多くの古木も残っています。正門脇や第2学舎1号館などにそびえるクスノキはいずれも幹周りが2メートル前後、高さは20メートル前後で、樹齢80年といいます。このキャンパス全体では高さ1.5メートル以上の樹木が2000本、それ以下の低木になると10万本に達します。圧倒的な緑と四季折々の花。都心からわずか30分の別世界です。

※千里山キャンパス以外でも、高槻キャンパスにはツツジの低木約8万本と広大な雑木林が、高槻ミューズキャンパスでもユキヤナギなど約1万本が、堺キャンパスでは約7000本がそれぞれ緑を競っています。

千里山キャンパスの手入れ

高槻キャンパスの風景

ビオトープでの観察の様子（関西大学初等部）

今月のシンクアクトさんくん
関大生の友の輪

法学部3年次生

# 日下諒さん

## ダンスと出会って、自分の世界が広がりました。

夏合宿の様子

コンテストに向けた練習風景

コンテストの様子

「私たちのサークルは、代々面倒見の良い先輩が多く、先輩・後輩の絆が深いので、メンバー誰もが楽しくダンスを続けられるのが特長です」。そう自信を持って話すのは、総勢400人近くのメンバーを有するストリートダンスサークルSoul Beat Crew（通称SBC）の代表を務める、日下諒さんです。日下さんは実は、幼い頃から松尾塾子供歌舞伎で女形を務め、日本舞踊を大学1年次生まで続けていました。日舞からダンスへ。転向のきっかけは、地元の駅で見かけたストリートダンスでした。「自由自在にカラダを動かし、技を決めていく」。決まった型通りに演じる日舞とは異なるストリートダンスならではの魅力、そのダンサーたちが駅周辺の清掃活動も行っていたという一面にも格好良さを感じたそうです。しかし、日舞からダンスへの転向は簡単ではなかったと日下さんは言います。まず大きく違うのは、踊る時の姿勢。日舞では背筋を正して演じますが、ブレイクダンスでは前かがみの姿勢が基本のため、練習を始めた当初は、日舞のクセが抜けず苦労したそうです。一方で、日舞を長年「見て学び」稽古してきたおかげで、観察眼が養われ、先輩方の指導を理解するのに時間があまりかからなかったのだとか。

現在は代表として10人の幹部と共に、サークルの運営だけでなく、イベント会場の予約や機材・音響設備の手配、広報誌の制作などの活動をしている日下さん。入会当初は、ひたすらダンススキルを身に付けるため練習に励む日々だったそうですが、代表になってからは周囲にも気を配れるようになりました。また、仲間と共に過ごす日々を通じて、あらためてダンスの楽しさを実感したため、ダンス好きの輪をもっと広げたいと思うようになったと言います。そういった思いから、学生主体イベントとして関西最大級のファッションエンターテインメントイベント“キャンパスコレクション”に、今年は2・3年次生が合同で参加し大変好評を得るなど、学外での活動にも積極的に力を入れているそうです。

「今は大好きなストリートダンスの素晴らしさをもっとたくさんの人に知ってもらって、ストリートダンスに対するイメージを向上させたい」。ダンスに対する熱い気持ちを語る日下さんの目には、進むべき次の目標というステージが映っているようでした。

今年は、コンテスト参加がきっかけになり有名アーティストのPVにも出演。ますます活躍の場が広がった一年になりました。

**次回（1月号）は、日下諒さんからのご紹介でカナダ・ケベック州にあるConcordia大学に留学した大坂 萌さん（文3）が登場。お楽しみに!**

Ryo Kusaka

Faculties/Graduate Schools Topics & Message

# 学部・研究科トピックス

各学部・研究科のさまざまな活動や取り組みなど、
トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

## 法学部／法学研究科

### メキシコ知的財産フォーラム

法学部では、例年JICA（独立行政法人 国際協力機構）と共催で、日本政府の招へいで来日中のメキシコの知的財産、技術移転に関わる行政官を招いてのフォーラムを開催しています。今年は12月9日（水）、千里ホールBにて10時から12時30分で開催予定です。同国の最新情報をご紹介いただきます。

（副学部長　山名美加教授）

## 文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

### ハルトマン教授講演会

10月29日にハルトマン教授（ミュンスター大学）の講演会「こちらと向こうを隔てるもの――『境界』についての文化人類学的研究」が開催されました。ベルリンの壁などあらゆる境界は消滅するが、それは文化の死滅ではなく、新たな接触による新文化をもたらすという内容でした。

（宇佐美幸彦教授）

## 経済学部／経済学研究科

### ゼミナール関関戦の開催!

10月17日に「ゼミナール関関戦」が開催されました。関西学院大学経済学部と行っている交流ゼミ企画で、運営も学生主体で行われています。一年ごとにそれぞれの大学で開催されており、今年は関西学院大学・西宮上ケ原キャンパスにお邪魔しました。

両校合わせて、研究発表部門には46チーム、ディベート部門には28チームが参加し、日頃のゼミでの研究活動の成果を競うとともに、大いに交流を深める機会となりました。来年は関西大学にお招きする番となります。

（教学主任　佐藤方宣准教授）

## 商学部／商学研究科

### ビジネス英語修得を目指すBestA

商学部独自の留学プログラムBestAが、英国・ヨーク大学で実施されました。4週間コースは8月下旬からの1カ月間、一学期コースは9月中旬から12月末まで、ヨーク市内でのインタビュー調査、ビジネスプランのプレゼンテーションなどを行い、ビジネスに特化した実践的英語を学びます。

（小井川広志教授）

## 社会学部／社会学研究科

### オープンキャンパスに何を求める

ここ数年のオープンキャンパスは盛況で、夏の千里山では20,058人もの来場をいただきました（10年前の約2倍です）。これほど多くの高校生が何を求めてやって来るのか気になるところですが、アンケートによると、希望するプログラムの第1位は「在学生による学部紹介」とのことです。教員としてはちょっぴり寂しい気もしますが、学生が前面に立って案内している社会学部のやり方は間違っていないのだなと自己満足する次第です。協力してくれている学生たちにあらためて感謝したいと思います。

（入試主任　保田時男准教授）

## 政策創造学部／ガバナンス研究科

### 池田市とのサポーター制度が始まりました!

政策創造学部の政策公務セミナーでは、地方自治体と連携して現場で公務員実務を学ぶ事業を始めます。具体的には、包括協定を結んでいる池田市と連携し、地方分権推進事業に学生を派遣して、地域振興に係る各種イベントの企画立案やウェブサイト作成業務を実体験してもらいます。地域社会のさまざまな問題を肌で感じることで、課題探究・解決能力が向上するだけでなく、必要となる知識や技能を主体的に習得する姿勢が身に付くことになります。

（副学部長　石田成則教授）

## 外国語学部／外国語教育学研究科

### 困難を笑い飛ばす小咄

皆さんは困難に直面したとき、どのように乗り越えますか。ロシア語通訳者、故・米原万里さんの著書『必笑小咄のテクニック』では、次のような小咄が取り上げられています。「モスクワ郊外のマッチ工場が火災でほぼ全焼した。唯一燃えなかったものがあった。その工場の製造するマッチだった。」ソ連製のマッチは付きが悪く、擦る度にイライラ。憂鬱な現状を悲壮に訴えても、さらに惨めになるだけ。そこで、ロシア人はそれを小咄に託して笑い飛ばすことで、苦しい時代を乗り切ったといいます。

（小田桐奈美助教）

## 人間健康学部／人間健康研究科

### ユーモア学プログラム開講中

人間健康学部でしか学べない「ユーモア学プログラム」は、秋学期も「笑いの文学」など多彩な授業を展開しています。「笑いの文学」では、山東省からの交換留学生、聴講生を交えて約30人が受講、目下古典なぞなぞなど言葉遊びの素材を使って、多角的な考え方の基礎を身に付けるトレーニングを行っています。その他「笑いの文明史」、「ユーモアの社会学」、「笑いの心理学」なども開講され、スポーツ、福祉と関連させながら笑い、ユーモアを科学する授業が行われています。

（浦和男准教授）

## 総合情報学部／総合情報学研究科

### 「ライティングラボ」を利用して「文章力」を磨く

関西大学では「ライティングラボ」を設置し、レポート、卒業論文、授業の発表資料（レジュメ・スライド）、ゼミや交換留学の志望理由書等について、日本語の文章作成を支援しています。皆さんが文章の作成等で困ったときに相談できる場所で、添削指導や書き直しを行うのではなく、大学院生のTAが、皆さんと一緒に考え、個別にアドバイスすることで、文章力を磨くことができます。高槻キャンパスではC棟1階学生サービスステーション内にありますので、まずは、ラボに足を運んでみてください。

（副学部長　林武文教授）

## 社会安全学部／社会安全研究科

### 専門演習発表会を実施

10月21日に、専門演習発表会を実施しました。社会安全学部では、3年次通年科目「専門演習」と4年次通年科目「卒業研究」の2年間を通じて、いずれかの教員のゼミに所属して卒業論文を執筆します。専門演習発表会は、その中間発表という位置付けであり、毎年3年次の秋学期に各ゼミから代表者を選考して実施しています。どの学生も、卒業論文で取り組む研究の背景、目的、研究方法、予想される成果などを真剣に発表していました。ゼミ選びに悩む2年次生にとっても、良い参考になった発表会でした。

（山川栄樹教授）

## システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

### 年末の理工系3学部

2015年も残すところあと1カ月となりました。12月の第1週（11月30日から12月5日（土））は理工系3学部の「安全衛生週間」です。安全管理チェックシートを利用した全研究室の一斉自主点検、学生委員を含む安全衛生委員会メンバーによる巡回・点検、安全衛生講演会などを通して、ハードとソフトの両面から、安全衛生環境の維持・向上を図ります。理工系の第4学舎では、2年にわたる2号館研究棟の耐震改修・リノベーション工事に引き続き、現在「中庭教室棟（仮称）」の建設工事が進行中であり、教室や研究室・実験室、あるいは周辺の環境が短期的に変化しています。いつもと違う環境では、いつもと違うことが起こるかもしれません。十分な知識と意識をもって危険を予測できれば、それを回避することができます。皆さんが社会に出られても、安全衛生の確保は技術者・研究者としての行動の大前提となりますので、各自がその自覚をもって積極的に「安全衛生週間」の取り組みに参加されることを期待しています。

また、12月6日(日)には、父母・保護者を対象とした「キャリアデザインセミナー」（1年次生）および「キャリアプランニングセミナー」（2年次生）が開催されます。キャリアプランニングセミナーでは、理工系の就職に関する総合的な説明、大学院進学に関する説明に加え、学生による就職活動報告などが行われます。父母・保護者の方々と共に自身の卒業後の進路についてよく考え、今後の学生生活の針路を定める機会になれば幸いです。

（環境都市工学部入試主任　松田敏准教授）

# 専門職大学院トピックス

## 臨床心理専門職大学院

### 肩書通りの仕事などない

これはあらゆる職種に言えることですが、心理臨床においても例外ではありません。基本は個別のアセスメントと個別の心理療法を技法として学ぶことに変わりはありませんが、悲しいかな、最近は科学性とエビデンス（EVIDENCE）という名のもと、単純で硬直なマニュアル主義が幅を利かせ、人間が生きる故に起きる矛盾の形而学上の意味すら深く考えようとしない傾向が心理臨床にもみられます。「人を深く知り、人を深く愛する」という、誰もが疑問を挟めない人間に対する「濃い関係性」を知識と技法を超えたところで「しぶとく深く学ぶ体験から逃げない」臨床家を、専門職大学院では育てたいと思います。それが与えられた肩書などに、びくともしない心理臨床家の存在感と言えましょう。

（石田陽彦教授）

# 併設校トピックス

## 関西大学高等部

### 文化の秋、芸術の秋を満喫

文化の秋の先陣は、9月に開催された中高合同文化祭です。恒例となった展示や発表、合唱・演劇、ダンスやバンド演奏など、盛況のうちに幕を閉じました。今年は模擬店を屋外に設置したこともあり、入口付近はお祭り広場と化し、学校がおいしい香りに包まれました。

11月のオータムセミナー（芸術鑑賞会）にはアカペラコーラスグループ「Be in Voices」を招きました。童謡からポピュラー音楽まで幅広い歌声に魅了される中、生徒たちも交えて、校歌をアカペラで大合唱するサプライズ企画も飛び出しました。

最後はSGH（スーパーグローバルハイスクール）研究報告会。全国から集まった先生たちの前に、緊張した面持ちで発表した生徒の表情は初々しくも頼もしく感じました。（関西大学高等部教頭　辻勝也）

# Attention 大学からの重要なお知らせ

**試験対策をしっかりと立て、1年間を有意義な結果で締めくくりましょう。**

## 「定期試験（筆記試験）」「到達度の確認」の注意事項・受験心得

### ① 学生証は必需品!

学生証がない場合は、受験できません。

**○紛失した場合：再発行の手続きを。**

教務センター、または各キャンパス事務室にて。

**○試験当日に忘れた場合：「受験許可証」の発行を。**

教務センター、各学舎授業支援ステーション、または各キャンパス事務室にて。

### ② 遅刻は厳禁!

授業も試験も遅刻は厳禁。受験できない場合もあります。
また交通機関の遅延など、不測の事態にも対応できるよう、早めの通学を心掛けてください。

### ③ 試験前の確認!

通常授業と教室が異なったり、同じ科目でも学籍番号によって、教室が分かれている場合があります。

**○学籍番号・氏名を記入するため、ボールペンは必須です（ただし、消せるボールペンは使用不可）。**

**○携帯電話・スマートフォンは時計として使用できません。**

### ④ 不正行為には厳正に対処します!

不正行為をした場合は、秋学期試験ですでに受験した科目はすべて無効になり、残りの科目も一切受験できません。
また、答案の持ち帰り、故意に学籍番号・氏名を偽った場合も不正行為とみなされます。

### ⑤ 病気など正当な理由で受験できない場合は・・・

医師の診断書など証明書がある場合は、「追試験」・「到達度の確認に相当する学力確認」を受けることができます（受験料1,000円）。
教務センター、または各キャンパス事務室で手続きしてください。

### ⑥ 成績発表の日時・確認方法

インフォメーションシステムで発表します。
日時等は「試験システム」で確認してください。

KANDAI Topics

# 関大トピックス

## 関西大学北陽高等学校90周年記念式典を挙行しました

10月31日に新阪急ホテルにおいて、関西大学北陽高等学校90周年記念式典を挙行しました。第1部では、同窓会会長の岡田彰布さんによる挨拶や祝辞に続き、校友である原強上智大学法科大学院教授による記念講演、月亭八光さん、又吉直樹さんから寄せられたビデオメッセージも公開されました。第2部では、桂春蝶さん司会進行の中、ジャスバンド部と足立衛さん（いずれも校友）によるジャズセッションなどが行われました。約250人が参加し、今後の発展を誓う盛大な会となりました。

## 大規模避難訓練「関大防災Day2015」を実施しました

千里山・高槻・高槻ミューズ・堺キャンパスで11月13日、「関大防災Day2015～広がれ!みんなの安全・安心!～」を実施しました。地震避難訓練では、授業中に大地震が発生したと想定し、学生・教職員約1万人の避難、避難誘導、安否確認を実施。他に、千里山キャンパスでは、避難器具体験、消火器・消火栓放水体験、また地域住民にも協力いただき炊き出し訓練を実施するなどさまざまな訓練を行いました。「防災」の大切さを考える一日となりました。

悠久の庭に避難し、安否確認シートを記入

炊き出し訓練の様子

## 学生センター主催 正課外教育プログラムを実施しています

学生センターでは、学生の皆さんが学生生活の中で気を付けておくべき多様なトラブルや、学部の学びのみならず、正課以外でも学んでおくべきことをテーマにした「正課外教育プログラム」を実施しています。バラエティー豊かな講師陣を招き、学生たちに楽しみながら学習・体験をしてもらえるプログラムが満載です。

10月13日にはALSOK（綜合警備保障株式会社）による「わかる!備える!身を守る!防犯・護身術セミナー」を開催。防犯・警備のプロであるALSOKの方を講師に招き、学生が被害に遭いやすい現況の犯罪情勢やトラブル別の防犯対策について座学で学んだのち、武術の経験がなくても身近な道具でできる護身術や、実践的な危機回避テクニックを体験しました。

また11月18日には東京海上日動火災保険株式会社の方を講師に、「トラブル急増!その時あなたは大丈夫?キャンパスライフの自転車講座」を実施。参加した学生は、講座を通して自身の自転車の乗り方や意識を改めました。

次回の「正課外教育プログラム」は、12月9日（水）と12月16日（水）に開催予定です。詳しくは、学生生活支援グループまでお問い合わせください。「正課外教育プログラム」に参加し、より一層充実したキャンパスライフを送りましょう。

防犯・護身術セミナーの様子

キャンパスライフの自転車講座の様子

## 第38回関西大学統一学園祭を開催しました

千里山キャンパスで11月1日から4日までの4日間、第38回関西大学統一学園祭を開催しました。今年のテーマは「一祭合祭（いっさいがっさい）」。「一切合切」を変換した造語であり、「学生全員で創り上げ、関大が誇る“人”の魅力を発信し、参加した全ての人に関大の力を感じてもらいたい」という思いが込められています。約700人の学祭実行委員をはじめ、関大生一人一人の頑張りのおかげで、各企画・イベント・模擬店などは、大きな盛り上がりをみせました。また昨年に続き、学園祭で排出されるごみの大幅削減を目指すべく、模擬店で使用する紙皿や紙コップにリサイクル可能なエコトレイ容器を導入しました。

## 全日本学生賞典障害飛越競技大会で、体育会馬術部の松水優斗さんが優勝

10月31日から11月4日に東京都・JRA馬事公苑で開催された第65回全日本学生賞典障害飛越競技大会において、体育会馬術部の松水優斗さん（文1）、バーデン・バーデン号が個人の部で優勝しました。また、5連覇がかかっていた団体の部は、僅差で同志社大学に敗れ、2位となりました。

松水優斗さんと今大会で全日本から引退する名馬バーデン・バーデン号
（写真提供：関大スポーツ編集局）

## 関大人 よもやまばなし 四方山話 ◆「比較の楽しみ」社会安全学部 林能成 准教授

今年、運転免許を更新した。北海道の手稲で免許をとって以来、東京の江東、鮫洲、府中、茨城の水戸、愛知の平針、静岡南警察とまわり、今回は高槻警察で手続きした。場所が毎回違っているのは、3年または5年という更新間隔の間に転職などで引越をしたからである。関大生の多くは「地元大好き派」なので、こんな暮らしはごめんだろう。私自身も任期付など不安定な職しかなかったので仕方なく、というのが正直なところであった。

ところが、違う街にしばらく住むことで気付く「ささやかな発見」が続いたことで気が変わった。途中からは、家族に迷惑を掛けながら、引越が楽しみになっている。例えば「食」は今でも地域性が強く残り、引越先で予想外のうまいものを見つけたり、逆に移動したら全くダメになったという経験をした。「比較」なしで何かの変化に気付くのは難しい。引越は「比較」のきっかけを与えてくれる。さまざまな比較から妄想が膨らむのを楽しんでいる。

## 編集後記

今号の特集「2015年関西大学おもしろニュース」で2015年に頑張った学生9人を取材しました。皆さん、目をキラキラさせて、やる気と自信にあふれた表情をまぶしく感じました。毎号思うのですが、学生を取材するたびに、私のほうが元気をもらい、「前を向かねば」とシャンとなります。一人一人頑張りどころは違っても、キラキラ感は共通していて、周囲を活気づけるほどのパワーがあるのです。「学生の皆さんのキラキラがある限り、日本もまだまだ大丈夫」などとのんきなことを考えながら、2015年も終わります。（広報課　久馬俊美）


関西大学通信 “KANDAI STYLE”
発行日：2015年12月1日（年9回発行）
発行：関西大学広報委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話：06-6368-1121（大代表）


## 今月の表紙

吉内さんのコメント

大学で写真部に入ってから本格的に写真を始めました。実は被写体の河合さんとは幼なじみで、河合さんに誘われて写真部に入ったんです。この写真は、12月らしくイルミネーションをイメージして、写真部の仲間2人に、グリーンやブルーのペンライトを回してもらい、外部ストロボやレフ板を使って撮影しました。今後は英語の勉強も兼ねて、ヨーロッパなどに撮影旅行に行きたいです。